

『跳べ！大福(ダーフー)！』 シノプシス

脚本:初稿(2011年11月)→2稿(2012年1月)

羅大福(ルオ・ダーフー。33)は、台湾の大手電子機器メーカーの林電子有限公司の東京支社で働く“チャラ男”社員(自称:「ダンス・キング」)。大福は東京での仕事に身が入らず、夜遅くまで遊び歩き、朝は遅刻を繰り返していた。一方、同じ林電子で働く浜田稔(37)は、妻のルンメイ(31)と娘のリンリン(6)と暮らすエリート社員。だが、彼は台湾企業では傍流である自身の心の隙間を埋めるように、アシスタントの鈴木美弥子(25)と不倫関係にあった。

実は、ルンメイは大福の元同僚で、かつての恋人でもあった。大福はそれもあって悶々とした日々を繰り返していたのだ。美弥子も不遇な家庭環境からくる満たされぬ思いを抱えて浜田との関係に安らぎ求めている。

そんなある日、大福は上司の命令で、取引先に休日出勤させられることになる。その帰り道、彼は偶然、昔の恋人・ルンメイに再会する。彼女は娘・リンリンをスケート教室に連れて行くところだった。

スケートリンクで旧交を温める大福とルンメイだったが、彼女が大福についての芳しくない噂を聞いたことで口論になる。しかし、そこで、心寂しさから不倫相手の浜田の娘が通うスケートリンクを覗きに来ていた美弥子と鉢合わせになり、さらに、彼らの会話を立ち聞きしていたアマチュア社会人スケーターの大蔵(45)たちから強引な勧誘を受け、大福と美弥子はフィギュアスケート教室に通う羽目になる。

ひよんなきっかけで始めたフィギュアスケートだったが、大福も美弥子もその魅力に心底はまっっていく。

最初はチャラ男の大福を快く思わない美弥子だったが、一緒にスケート教室に通ううちに、徐々に大福を信頼していく。一方、大福は美弥子に本気で恋するようになる。

そんな彼らは、ある日、“最悪の鉢合わせ”(=“女連れの大福”と“浜田と腕を組んで歩く美弥子”)を経験する。が、あることを契機に、二人はお互いを理解し、心底愛し合うようになる。

美弥子には、昔から家族に迷惑かけ通しだった2歳違いの弟・武蔵(23)がいる。美弥子たち家族は知らなかったが、実は武蔵は振り込み詐欺グループの一員で、多額の収入を得ていた。

愛し合う大福と美弥子は、大福の故郷・台北に向かう。彼らは台北で観光や家族との邂逅を楽しむ。彼らには台北で「スケート仲間の大蔵の別れた妻を探す」というミッションがあった。一生懸命、別れた妻を探す大福たち。しかし、そこにはある真実が隠されていた……

日本に帰った大福と美弥子。

突然、警察が美弥子の弟・武蔵の振り込め詐欺グループを捜索し、武蔵が行方をくらませる。武蔵は詐欺のみならず殺人の容疑もかけられ、指名手配されることになる。さらに悪いことに、それを知った父が突然倒れる。武蔵の件は会社で話題となり、美弥子の会社での立場は悪くなる。

一方、浜田は取引先の日本企業との提携という大きな仕事を推進していたが、林電子の台湾本社から支援を得られず、さらには取引先企業にも裏切られてしまう。四面楚歌となり、完全に会社での立場を無くす浜田。

さらに、あることがきっかけで浜田と美弥子の(かつての)不倫関係が社内に知れ渡る状況となり、結果、二人は会社を去ることとなる。

浜田は妻・ルンメイに受け入れられ、再出発を誓う。

一方、大福は美弥子を受け入れようとし、プロポーズをするのだが・・・美弥子はそれを拒絶する。美弥子は大福の下を離れていった。

半年後。

台湾に帰った大福は元のチャライ社員ではなかった。美弥子を失った心の隙間を、仕事に没頭することで埋めようとする大福だったが・・・

ある日、大福は台北で小さなスケート施設を見つけ、久しぶりにフィギュアスケートを滑る。その時、大福は一瞬にして気づくのだった。自分がどれだけ美弥子を愛しているか、ということに。

誰もいないスケートリンクで、大福はフィギュアスケートを滑る。スポットライトの中、真剣な表情で、汗を飛びちらし、情熱を込めてスケートを“踊る”大福。

その時・・・“自称”ではなく、彼はまぎれもなく「ダンス・キング」になっていた！